据付け

■据付け場所の選定および標準据付け例

- ストーブの据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準、石油燃焼機器の設置基準等による規制があります。
  工事編の「安全のため必ずお守りください」をお読みになり、販売店または据付業者とよく相談してください。
- 標準据付け例については26ページを参照してください。

■据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度工事編の「安全のため必ずお守りください」をお読みになり、工事編に記載されているとおり据付けられているか確認してください。

■試運転

試運転は販売店または据付け業者とご一緒に必ず行ってください。

1 運転準備 （詳しくは、8～10ページを参照してください。）

❶油タンクに灯油(JIS1号灯油)を給油し、油タンクの送油バルブを開いてください。
❷ゴム製送油管内に空気だまりがあると油が流れません。
一度ゴム製送油管を振って空気抜きをしておいてください。
❸電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認してください。
❹右下にある定油面器セットレバーを2～3回押し下げてください。
❺ストーブの下部(置台の上)やゴム製送油管、およびその接続部等に、油漏れや油だまりがないか確かめてください。

2 運　転

❶運転操作は、10～15ページを参照して行ってください。
❷初めてお使いになるときは、油が定油面器に入るまでに5分ほどかかりますので、点火するまでに多少時間がかかります。
❸試運転時、塗料の焼けるにおいがすることがあります。
30分ほど窓をあけて運転してください。
❹点火後、約2分たちますと、自動的に対流用送風機が回って温風が出ます。
❺設定室温を変え、炎の大きさが変わるかを確かめてください。

3 消　火

切ボタンを押して消火操作後は約50秒で火が消え、しばらくして(約3分)対流用送風機が止まることを確かめてください。

〔以上で試運転は完了です。〕

工事説明書（工事編）

据付け工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。
なおこの説明書は必ず保存してください。

安全のため必ずお守りください…➡

正しく、安全に据付けていただくために、この説明書では次のように区分して表示しています。その内容をよく理解したうえで据付けてください。

⚠警告	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡・重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について

この絵表示は「禁止」事項を示しています。

この絵表示は必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

据付けや移動は販売店へ依頼すること

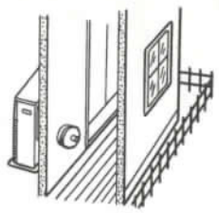
- ご自分で据付けをされ不備があると、感電や火災の原因になります。

法令の基準を守る

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る。

屋内給排気禁止

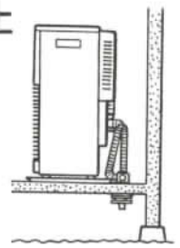
必ず屋外に排気してください。



- 排ガスが室内に充満して危険です。

床下給排気禁止

必ず屋外に排気してください。



- 排ガスが室内に漏れて危険です。

外れ危険

排気管・給気ホースと給排気筒は確実に接続し、しっかりと固定してください。

- 風・振動・衝撃などで外れたりすると、運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

給排気筒トップ閉そく危険

積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。

- 運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

⚠注意

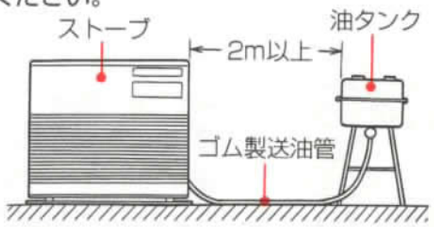
次の場所には据付けない

○水平でない場所。不安定な場所。
○不安定な物をのせた棚などの下。
○可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所。
○付近に燃えやすいものがある場所。
○階段、避難口などの付近で、避難の支障となる場所。
○防火対策をしていないマントルピース。
○温室、飼育室など、人のいない場所。

●火災や予想しない事故の原因になります。

油タンクとの距離を離す

油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。



●据置式の油タンクは、不燃材の床上に据付けてください。

給排気筒は本体に取付けてあるものか、または指定のものを使用する

●それ以外のものを使用すると、不完全燃焼、機器の過熱、火災等の危険があります。

ゴム製送油管の屋外使用禁止

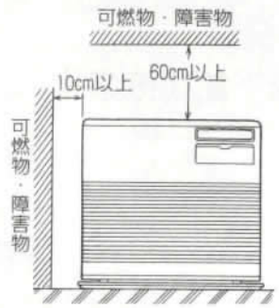
ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。

●ひび割れが生じて油漏れの原因になります。

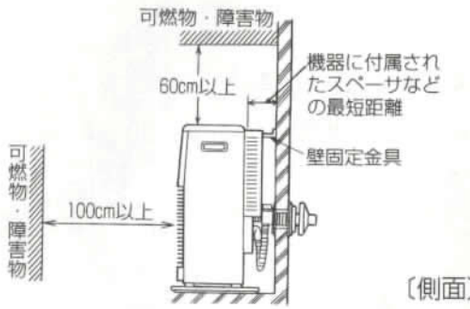
可燃物との距離は離す

機器本体、給排気筒トップから周囲の可燃物までの離隔距離は下図のようにしてください。

［標準据付け図例］

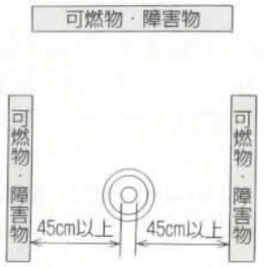


〔正面〕

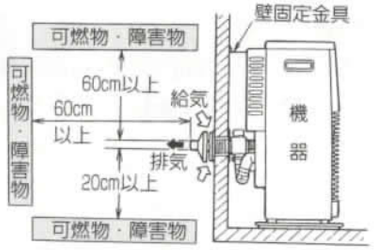


〔側面〕

［給排気筒の標準据付け図例］



〔正面〕



〔側面〕

●機器に付属された置台の上に据付けること。

⚠注意

給排気筒の点検

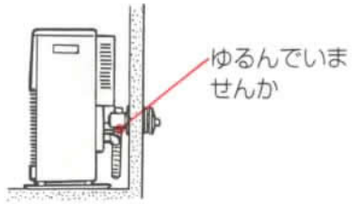
取付けが終わりましたら、もう一度点検してください。
次のようなことが守られていないと、危険であったり、不完全燃焼を起こすおそれがありますので、必ず修正してください。

カーテン・可燃物近接禁止

可燃物、カーテン、洗たく物などが、排気管などの高温部に触れていないこと。

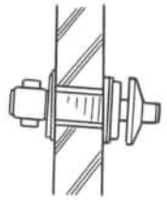
接続のゆるみ点検

給排気筒や排気管の接続部がゆるんでいたり、外れていないこと。



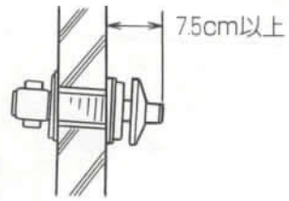
下り勾配のこと

給排気筒の取付けが上り勾配になっていないこと。



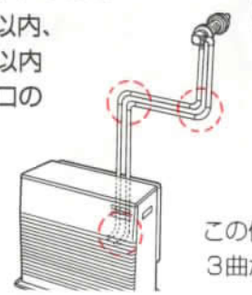
7.5cm以上のこと

給排気筒の先端が規定寸法以上になっていること。

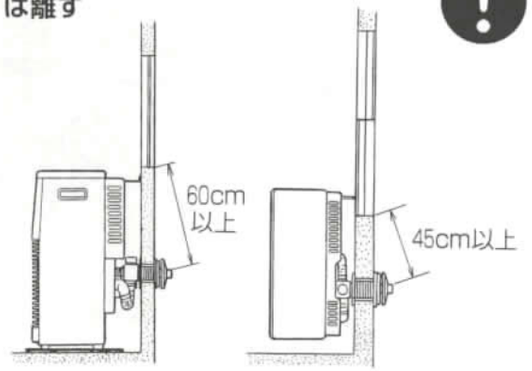


3m3曲がり以下のこと

延長距離は3m以内、曲がりは3箇所以内のこと。(本体出口の曲がりを含む)



給排気筒トップとの開口部との距離は離す



危険物近接禁止

給排気筒の近くに危険物や障害物がないこと。

給排気筒の壁貫通部にはガス管、水道管、電気配管が近くにないこと

⚠注意

変則工事の禁止

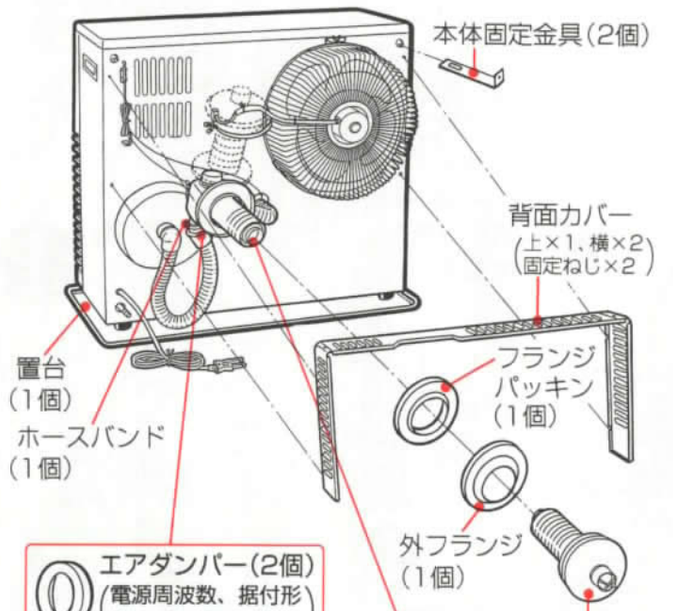
ストーブの据付けおよび給排気筒の取付けは、必ず26ページの図例に示す要領によるか、または別に定めてあります応用据付けの許容範囲内で、正しく行う必要があります。
これらによらない変則的な取付けを、販売店にご用命にならないでください。

- 床下に直接給排気したり、また集合煙突に給排気筒を取付けることは、絶対におやめください。不完全燃焼します。

開こん

開こんの際の注意と付属部品の確認

- 段ボール箱から本体を取出し、パッキン、テープ等の包装材を取り除いてください。
- 上部に入っている段ボールのパッキン(上シート)は、据付けるときに使用する型紙になっていますので、捨てないでおいてください。
- 付属部品の確認を行ってください。



エアダンパー(2個)
(電源周波数、据付形態により使いわける)

50Hz地区標準据付(1m未満の延長据付)	
50Hz地区延長据付(1m以上)	不要
60Hz地区標準据付(1m未満の延長据付)	
60Hz地区延長据付(1m以上)	

給排気筒A
点線のような向きで固定してあります。固定ひもを外して図のように倒します。

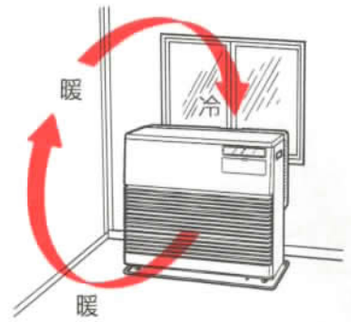
給排気筒B
給排気筒Aにねじ込んで取付けてあります。

据付け …➡

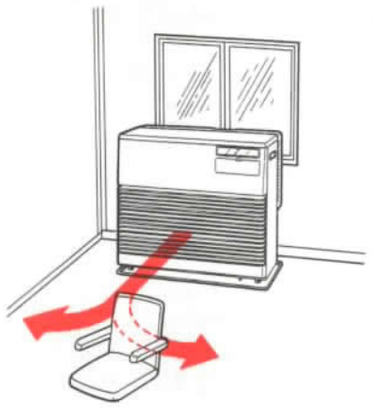
据付け場所の選定

■本体の据付け場所は、暖房効果の良い場所、丈夫で水平な床面、給排気筒を屋外に出すのに適した位置等を考慮してお選びください。

- 外気に接する窓の下や壁面の近く



- 温風の循環を妨げない



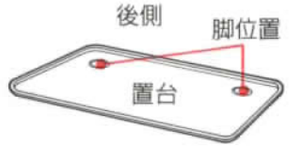
- 点検・サービス・電源コンセント等の都合も併せて考慮してください。
- ドアの近くやすき間風の入るところには据付けないでください。

■**屋外に出した給排気筒の周囲に、可燃物や障害物があってはいけません。**
給排気筒先端の排ガス温度は約230℃になります。
また、給排気筒から多少臭気が出ますので、隣近所の迷惑にならないような場所を選んでください。

据付け方法 …➡

1 置台の取付け

ストーブ据付け位置に置台を置き、その上にストーブを設置してください。
その際ストーブの脚が、置台の脚位置にくるようにしてください。



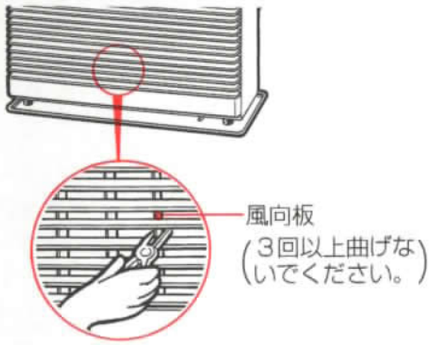
2 電源の接続

電源プラグを家庭用100Vのコンセントに差し込んでください。

- 専用のコンセントを使用してください。
- 電源コードが給排気筒などの高温部に触れないよう注意してください。
- 電源プラグはしっかりと差し込み、また抜き差しは必ず電源プラグを持って行ってください。

3 風向板の調節

温風吹出口の内側の風向板により温風吹出し方向を調節できます。
据付けのとき、ラジオペンチなどを用いてご希望の方向に風向板を曲げてください。



4 本体の固定

付属の本体固定金具を利用して、壁面にねじ止めして本体を固定してください。
壁への固定のしかたについて詳しくは34ページをご覧ください。

[本体固定金具が壁に固定できない場所ではこのストーブは使用を禁じられています。]

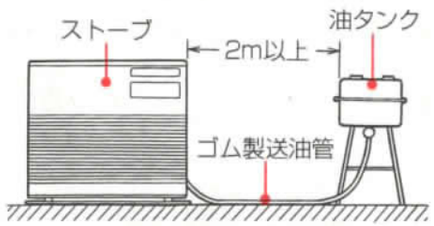
5 油タンクの組立てと据付け

❶油タンクは「日立油タンクOT-43、OT-63、OT-93N」(別売)をご利用ください。

❷組立ては、油タンクの「取扱説明書」にしたがってください。

❸据付けは、不燃材料の上に据付け、簡単に動いたり、倒れたりすることのないようにし、畳、じゅうたんなどの上には据付けないでください。

❹ストーブとの間に防火上有効な壁等がない場合は、2m以上離してください。



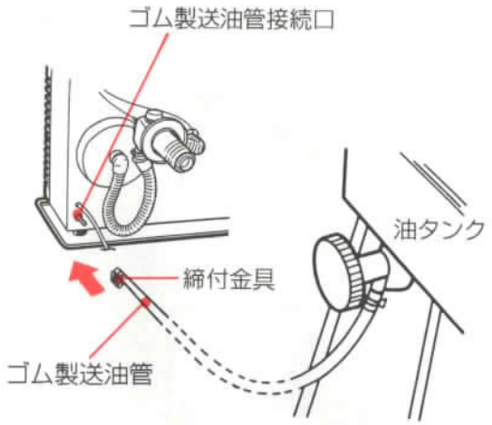
❺ストーブ据付け床面と同じ高さの床面に据付けてください。

- 屋外設置の大型油タンクを使用する場合は、ストーブ据付け床面より油タンク下面までが40cm以上で、上面までが2.6m以下になるようにしてください。
- 油タンクの設置位置が低いと油がストーブに流れず、また高すぎると定油面器内の安全装置が作動して油が流れなくなり、使用できなくなります。
- 油タンクの据付けについて各地の火災予防条例でこれと異なる定めがある場合は、それにしたがってください。

6 ゴム製送油管の取付け

❶ゴム製送油管は、必ずストーブに付属のものを用いてください。

❷ゴム製送油管を接続してください。
本体側および油タンク側とも、ゴム製送油管接続口にしっかりと差し込み、締付金具で固定してください。



- ゴム製送油管が途中で盛り上がったり、もつれたりしていますと、その部分に空気だまりを生じて油が流れなくなりますので注意してください。
- ゴム製送油管は、直射日光の当たる場所(屋外)での使用はひび割れを生じて油漏れの原因となり禁じられています。
屋外配管するときや、埋設部分があるときは、鋼管または銅管配管工事を販売店に依頼してください。

給排気筒の取付け …➡

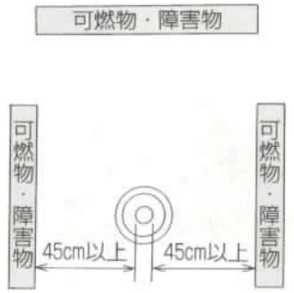
給排気筒は、ストーブに取付けてあるものか、または当社指定のものを使用してください。
これら以外のものを使用すると、不完全燃焼や器具の過熱、火災等の危険があります。

給排気筒の取付け場所の選定

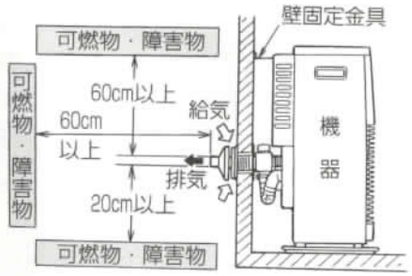
- 給排気筒先端は、外気に面している壁に取付けてください。
- 雪で給排気筒先端が埋まるような場所や風の吹きだまりになるような場所には取付けないでください。
- 大きな樹木等の障害物のない場所へ取付けてください。
- 給排気筒先端からは熱い排ガスがでます。
プロパンガスボンベや、石油かん等の危険物のない場所に取付けてください。
また、前方の可燃性障害物との距離は60cm以上確保してください。
- 風が長時間給排気筒の前方から吹きつける場所では外壁が汚れることがありますので注意してください。
- 高い場所など屋外から作業できない所には取付けできません。
- 点火、消火時に臭いが出ますので隣り近所の迷惑にならない場所に給排気筒を取付けてください。

給排気筒の取付け図例

〔給排気筒の正面〕



〔給排気筒の側面〕



- 給排気筒先端の給排気部に、袋等はかぶせないでください。

給排気筒の取付け工事方法(標準据付けの場合) …➡

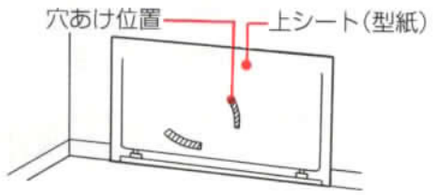
1 壁厚を確認する

取付け可能な壁厚は1.5～22cmの範囲です。

- 壁厚が1.5～12.5cmまでの壁に取付ける場合は、同梱の薄壁用ねじキャップを使用してください。(34ページ参照)
- 厚さが22cmを超える壁に取付ける場合は、販売店または据付け業者とよくご相談のうえ、別売の応用据付け部品を使用して取付けてください。
標準の給排気筒では、給排気筒A(室内部)と給排気筒B(室外部)との接続が不十分となり、異常燃焼を起こしたり排ガスが漏れたりして危険です。

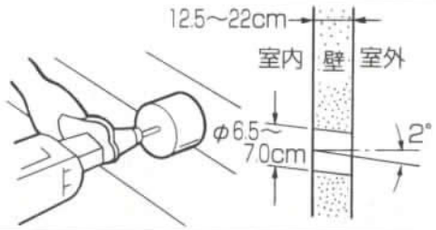
2 壁穴の位置を決める

梱包材として使用していた上シート(型紙)をあてて、穴あけ位置を決めてください。
なお、26ページ「標準据付け図例」で示す周囲の寸法は必ず守ってください。



3 壁穴をあける(約2°傾斜させてあける)

センタードリルで中心に穴をあけた後、φ6.5～7.0cmホールソーカッターで壁に穴をあける。(1ヶ所)
●壁穴は2°傾斜(外に向かった下り勾配)してあける。

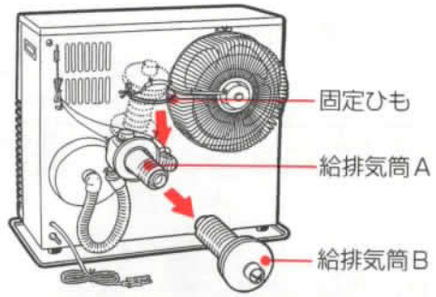


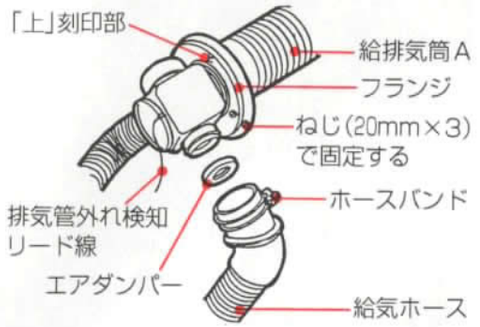
4 給気ホースを接続する

❶本体背面に給排気筒が固定してあります。
固定ひもを外して給排気筒を図のように倒します。
●給排気筒Bを左に回して給排気筒Aから外しておいてください。

❷28ページの使用区分に合わせて給排気筒Aの給気口に付属のエアダンパーをはめ込み、給気ホースを接続してホースバンドでしっかり締め付けます。

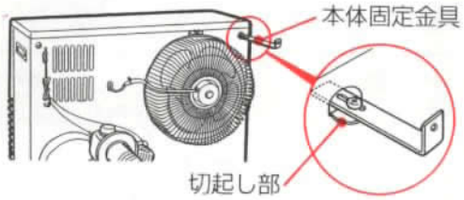
❸給排気筒Aのフランジを「上」の文字部が上になるようにします。
●給排気筒Aのフランジ部は回転するようになっています。
筒の部分をしっかり持ってフランジを回転してください。





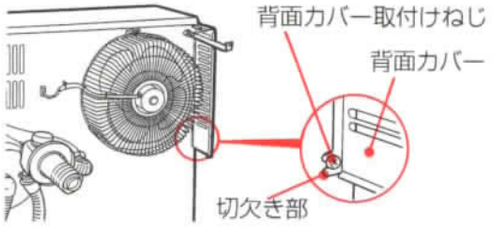
5 本体固定金具を本体に取付ける

本体背面にある切起し部に本体固定金具を差し込み、付属のねじ(長さ8mm)により固定する。



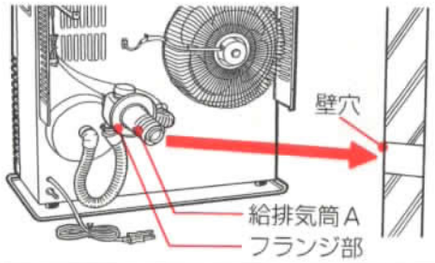
6 背面カバー横を取付ける

本体背面の背面カバー取付けねじ(左右各2本)をゆるめ、背面カバー横(右・左)の切欠き部を差し込んで再締付けして取付けます。



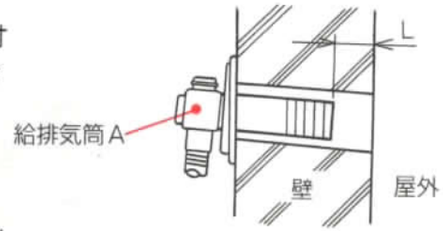
7 本体を移動する

置台と本体を持ち上げるように移動させ、壁穴に給排気筒Aを差し込みます。
給排気筒Aのフランジ部が壁面にピッタリ付くようにしてください。

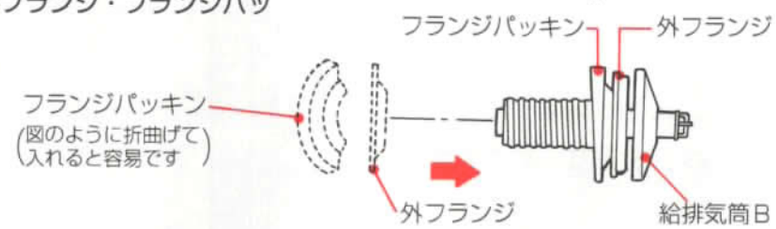


8 給排気筒Bを取付ける

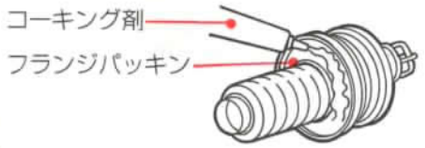
❶屋外側から給排気筒Aの外壁面からの引込み寸法(L)を測り、9.5～0cmの範囲にあることを確認します。



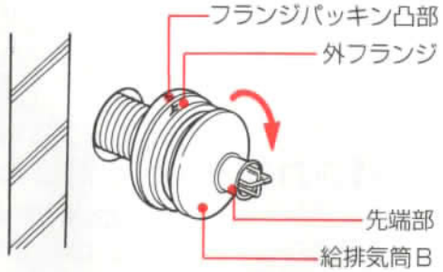
❷給排気筒Bの元まで外フランジ・フランジパッキンを差し込みます。



❸フランジパッキンの内側にコーキング剤を塗ります。



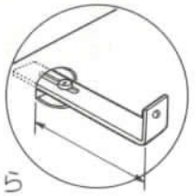
❹フランジパッキンの凸部(「上」文字部)を上にして押さえ、給排気筒Bを給排気筒Aにはめ合わせてねじ込み、外壁にしっかりと固定します。
先端部を持ってねじ込むと容易にねじ込めます。
●ラス網(モルタル壁の下地用金網)張りや、外面鉄板仕上げの壁に取付ける場合は、付属の絶縁シールを巻き、壁内外の金属部と給排気筒間の絶縁をしてください。



9 本体固定金具を壁面等に固定する

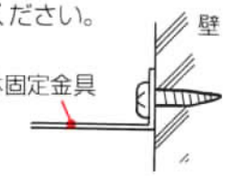
本体固定金具の他端を、ねじ(長さ20mm)で壁面等に固定します。
●本体固定金具は、ストーブと壁面との寸法により調整できます。
●壁への固定方法は次のページに従ってください。

本体固定金具が壁に固定できない場所ではこのストーブは使用を禁じられています。

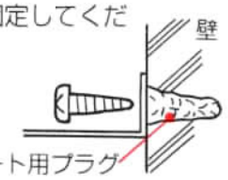


〔固定のしかた〕

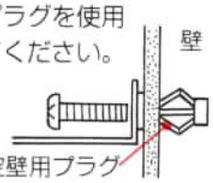
(イ)木または厚い合板の壁への固定
付属のねじ(長さ20mm)で直接壁に固定してください。



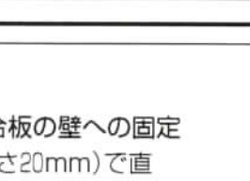
(ロ)モルタル・コンクリート壁への固定
市販のコンクリート用プラグを使用して壁に固定してください。



(ハ)石膏ボード、薄い合板等の中空壁への固定
市販の中空壁用プラグを使用して壁に固定してください。

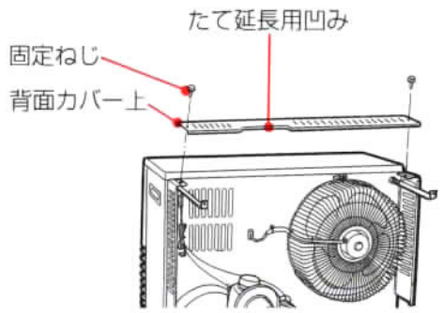


(ニ)土壁・しっくい壁等への固定
壁にそえ木をし、付属のねじ(長さ20mm)でそえ木に固定してください。



10 背面カバー上を取付ける

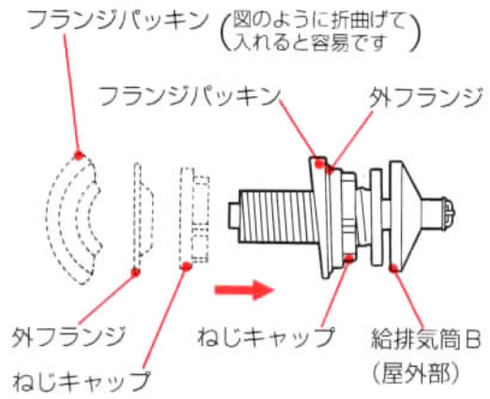
たて延長用凹み部が、壁面側となるよう背面カバー上をのせ、固定ねじで取付けます。



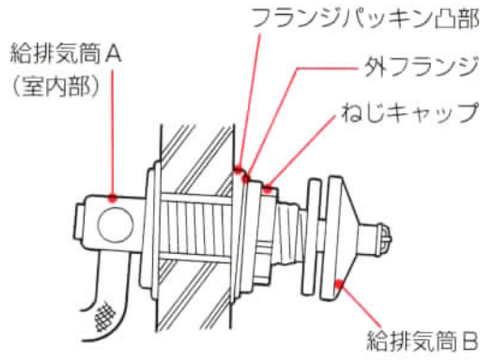
薄壁への取付け方法

壁厚が1.5～12.5cmの薄壁へ取付けるときは、付属の薄壁用ねじキャップを使用して、次のように給排気筒を取付けてください。

❶給排気筒Bの元までねじキャップをねじ込み、外フランジ・フランジパッキンを差し込んだ後、フランジパッキンの内側にコーキング剤を塗ります。



❷壁厚を測った後、給排気筒Bを給排気筒Aに最後までねじ込み、フランジパッキンの凸部(「上」文字部)を上にして押さえ、ねじキャップをねじ込んで締め、外壁にしっかりと固定します。



延長据付けについて

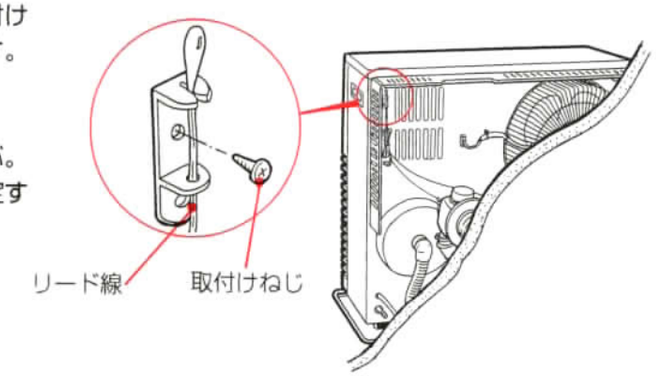
給排気筒の取付け方法は、標準据付けの他に応用(延長)据付けもできます。
お部屋の状態等により延長据付けを行う場合は、販売店または据付業者とよくご相談の上、ご依頼ください。
なお、延長据付を行う場合の延長限界は、長さ3mまで、曲がりは3ヶ所(本体出口の曲がりを含む)以内です。

●抜け止め金具は必ず取付けてください。
取付けないと排気管外れ検知装置が動作し、運転しなくなることがあります。

室温センサー(ルームサーモ)の移動のしかた

本体側面に壁がくるコーナー据付け、背面がガラス窓となる据付け、排気管が室温センサーの近くを通る据付けなどの場合は、室温がお好みの温度になりにくいことがあります。
このようなときは次の要領で室温センサーを外して他の場所へ移動してみてください。

❶本体背面にある室温センサーの取付けねじを外して、室温センサーを外す。
❷まとめてあるリード線を伸ばす。
(リード線は約1m伸びます。)
❸場所を変えてみて適当な場所を選ぶ。
❹位置が決まったら取付けねじで固定する。



試運転

試運転は使用者と一緒に必ず行ってください。
取扱説明書の8～10ページを参照して運転準備を行い、10～15ページを参照して運転(点火)・室温調節・タイマー運転・消火などの試運転を行ってください。

お客様メモ…

後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

ご購入年月日	平成　　年　　月　　日
購 入 店 名	電話（　　－　　）

愛情点検

長年ご使用の石油温風クリアヒーターの点検を！

●石油温風クリアヒーターの補修用性能部品の保有期間は、製造打切後7年です。

ご使用の際、このようなことはありませんか？	●ときどき点火しないことがある。 ●ときどき消火することがある。 ●においようになった。 ●その他の異常・故障がある。	▶ お願い	故障や事故防止のため、消火してコンセントから電源プラグを抜き販売店にご連絡ください。点検・修理についての費用など詳しいことは販売店にご相談ください。

株式会社 日立空調システム

〒101−0041　東京都千代田区神田須田町 1−23−2　電話 (03)3255−7201番
（大木須田町ビル）

株式会社　日立ホームテック

〒105−8410　東京都港区西新橋 2丁目15番12号　電話 (03)3502−2111番

日立ホーム&ライフソリューション株式会社

〒105−8410　東京都港区西新橋 2丁目15番12号　電話 (03)3502−2111番

NH211041-05 2003-07(DC・M)1